

<h2>1 総人口</h2> <div style="text-align: right; border: 1px solid red; padding: 2px; color: red; font-weight: bold;">New!</div>		<p>基準: 各年10月1日現在 出典: H22,27年=総務省「国勢調査結果」、その他の年=県統計課「福島県の推計人口」</p>
<p>◎前年比 -1.0% 20年連続減</p>	<p>◎震災前比 H29=92.7 (H22=100.0)</p>	<p>(人) (前年比: %)</p> <p>H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27 H28 H29</p>
<p>○国勢調査の結果(平成22年と平成27年)を比較すると5.7%減少し、全国で2番目に高い減少率であった。 ○平成29年11月1日時点の推計人口は1,880,480人となった。</p>		
<h2>2 人口の移動状況(社会動態)</h2>		<p>基準: 各年1月1日から12月31日までの計 出典: 県統計課「福島県の推計人口(福島県現住人口調査)」</p>
<p>◎前年比 転入 -7.2% 転出 +2.3% 5年振り転出超過拡大</p>	<p>◎震災前比 転入 H28=103.2 転出 H28= 97.4 (H22=100.0)</p>	<p>(人)</p> <p>H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27 H28</p>
<p>○震災時に大規模な人口流出が生じ、平成24年以降は転出超過の縮小が続いていたが、5年振りに転出超過が拡大した。 ○平成28年は前年より転入者が7.2%減少、転出者が2.3%増加し、転出超過が前年より拡大した。</p>		
<h2>3 合計特殊出生率</h2>		<p>基準: 年 出典: 厚生労働省「人口動態統計」</p>
<p>◎前年比 +0.01ポイント 2年振り増</p>	<p>◎震災前比 H28=104.6 (H22=100.0)</p>	<p>(合計特殊出生率)</p> <p>H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27 H28</p>
<p>○本県の合計特殊出生率は震災以降、平成24年までは下降していたが、平成25年に上昇に転じ、震災前の水準へ回復した。 ○平成28年は前年から0.01ポイント上昇し、4年連続で全国を上回っている。</p>		
<h2>4 県内総生産(名目)</h2>		<p>基準: 年度 出典: 県統計課「福島県県民経済計算」</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px; font-size: small;"> ※計算方法の変更などにより早期推計と確認では大きな差が生じる可能性がある。 </div>
<p>◎経済成長率(前年度比) -1.6% 4年振り減</p>	<p>◎震災前比 H27=104.9 (H22=100.0)</p>	<p>(億円) (経済成長率: %)</p> <p>H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27</p>
<p>○平成27年度の県内総生産(名目)は、製造業や卸売・小売業、建設業が減少したことから全体として減少し、経済成長率(名目)は4年振りにマイナスに転じた。 ○減少したものの、3年連続で7兆円を超え、震災前の平成22年度を上回る水準で推移している。</p>		
<h2>5 一人当たり県民所得</h2>		<p>基準: 年度 出典: 県統計課「福島県県民経済計算」</p> <div style="border: 1px solid gray; padding: 2px; font-size: small;"> ※計算方法の変更などにより早期推計と確認では大きな差が生じる可能性がある。 </div>
<p>◎前年度比 -0.7% 4年振り減</p>	<p>◎震災前比 H27=112.2 (H22=100.0)</p>	<p>(千円) (前年度比: %)</p> <p>H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27</p>
<p>○平成27年度の一人当たり県民所得は284万2千円となり、4年振りに前年度の水準を下回った。 ○平成24年度以降、震災前である平成22年度の253万2千円を4年連続で上回って推移している。</p>		

<変化方向について>
 緑:良い動き 赤:悪い動き 黄:横ばい で表示。
 ※逆向き指標(企業倒産件数等)が減少した場合、下向きかつ緑(良い動き)の矢印となる。

<h3>6 地域別最低賃金</h3> <p>◎前年度比 +3.0% 14年連続増</p> <p>◎震災前比 H29=113.9 (H22=100.0)</p> <p>○本県の平成29年度の最低賃金改定額は前年度から22円上昇し、748円となった。 ○現在の表示方式となった平成14年度以降で最大の引上げ幅となったが、全国加重平均額である848円は下回っている。</p>	<p>基準:年度 出典:厚生労働省「地域別最低賃金改定状況」</p> <p>(円) ※時給 (前年度比: %)</p> <p>H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27 H28 H29</p>
<h3>7 全国新酒鑑評会結果 (順位・金賞受賞数)</h3> <p>◎前年度順位比 H27 → H28 1位 → 1位 5年連続日本一</p> <p>◎震災前比 H28=1位 (H21=1位)</p> <p>○平成28酒造年度の本県産日本酒の金賞受賞数は22点であった。 ○金賞受賞数は5年連続で日本一であり、本県の酒づくりは高い評価を受けている。</p>	<p>基準:酒造年度(7月1日～翌年6月30日) 出典:独立行政法人酒類総合研究所、日本酒造組合中央会「全国新酒鑑評会審査結果」</p> <p>(点) (順位)</p> <p>H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27 H28</p>
<h3>8 製造品出荷額等・付加価値額</h3> <p>◎前年比 製造品出荷額等 -3.6% 付加価値額 +0.2% 4年振り減 4年連続増</p> <p>◎震災前比 製造品出荷額等 = 96.5 付加価値額 = 93.6 (H22=100.0)</p> <p>○製造品出荷額等は4年振りに下降したが、付加価値額は4年連続で上昇が続いている。 ○いずれも震災により平成23年は大きく落ち込んだが、震災前の9割を超える水準まで回復した。</p>	<p>基準:年 出典:経済産業省「平成28年経済センサス-活動調査産業別集計(製造業)に関する集計(概要版)結果の概要(工業統計調査結果との比較)」 ※従業員4人以上の事業所が対象。</p> <p>(単位:億円) (前年比:%)</p> <p>H22 H23 H24 H25 H26 H27</p>
<h3>9 1等米比率(水稲うるち玄米) New!</h3> <p>◎前年同期比 -1.6ポイント 2年振り減</p> <p>◎震災前比 H29=124.3 (H22=100.0)</p> <p>○本県の平成29年産水稲うるち玄米の1等米比率(速報値)は2年振りに減少したが、5年連続で90.0%を上回って推移している。 ○本県産米の1等米比率は全国を上回っており、平成29年産米は全国を9.8ポイント上回った。</p>	<p>基準:年 出典:農林水産省「米の農産物検査結果」 平成20年産米から27年産米までは翌年10月末時点の比率で確定値。平成28年産米及び平成29年産米は平成29年10月末時点の比率で速報値。</p> <p>(単位:%)</p> <p>(年産米) H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27 H28 H29</p>
<h3>10 出身高校の所在地 県別入学者数(大学・短期大学) New!</h3> <p>◎前年度比 県内高校 +7.4% 県外高校 -2.4% 2年連続増 2年連続減</p> <p>◎震災前比 県内高校 = 87.1 県外高校 = 92.8 (H22=100.0)</p> <p>○県内高校から本県の大学・短期大学へ入学した人の数は平成23年度から5年連続で減少が続いていたが平成28年度以降2年連続で増加している。 ○県外高校からの入学者は2年連続で減少したが、震災前の9割を上回っている。</p>	<p>基準:各年度5月1日現在 出典:文部科学省「学校基本調査」※平成29年度は速報値 ※大学の所在地は入学した学部(部)の所在地により、短期大学の所在地は入学した学科の所在地による。</p> <p>(単位:人)</p> <p>H22 H23 H24 H25 H26 H27 H28 H29</p>

各指標の詳細なデータについては、出典元の各統計をご覧ください。